

SI スクールアイデンティティ



AI 技術等の爆発的な進化によって、産業界が大きく変化していく中でも、人間らしい感性や「0から1を生み出す」クリエイティブな能力を持ったデザイナーやエンジニアはこれからも必要とされている。このSIは、本校の特色でもあるデザイン思考を基礎とし、「課題を自ら見つけ出し、自ら考え、解決する」有為な人材の育成を目指している。

本校の教育目標

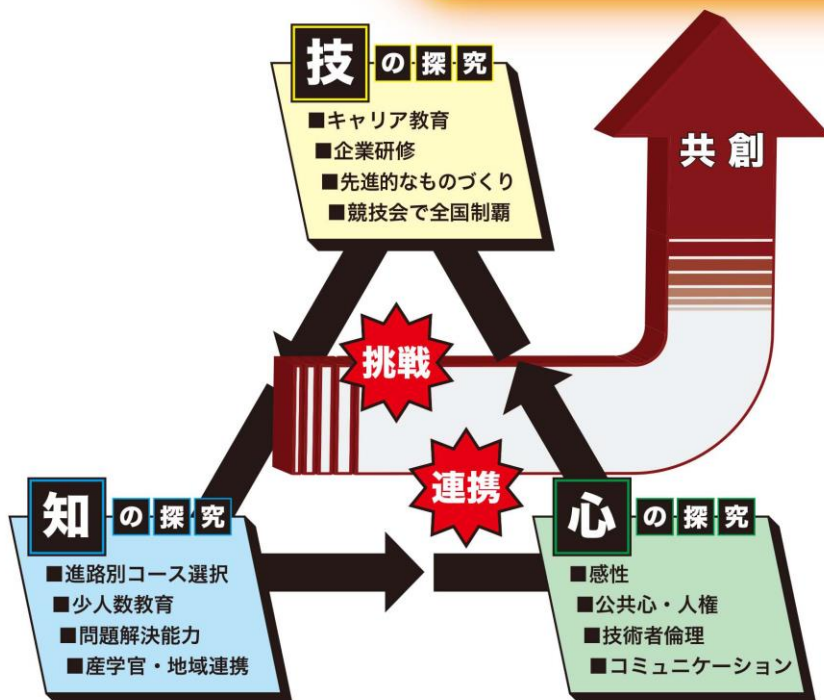
自分の道を、自分で考え、自分で選択し、自分で歩いていく生徒を育てる

本校の教育方針

- ① 広い視野と豊かな感性の育成
- ② 基礎的・基本的な知識・技術や技能の習得
- ③ 自律的に生きる人間の育成
- ④ 公共のために尽くす心、人権を尊重する心の育成
- ⑤ 社会的マナー・モラルの育成
- ⑥ 心身共に健やかで活力のある人間の育成

自分の道を、自分で考え、自分で選択し、
自分で歩いていく生徒の育成

社会の発展に寄与するスペシャリストの育成



令和元年度重点目標について

「知・技・心の探究を通して、自ら考え、挑戦し続けるスペシャリスト」を育成することを基本方針とし、グローバルな視点を持ちながら、様々な外部機関との連携により社会(地域)に貢献し、新しい価値の創造に挑戦する工業教育を推進する。

新学習指導要領の趣旨に基づき、社会のニーズを取り入れた「社会に開かれた教育課程」を構築する。また、「高校生のための学びの基礎診断」等を実施し、「確かな学力」の定着・向上を図る。

① 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた本校の教育課程の構築

今年度より、「総合的な探究の時間 one by design」を実施し、より探究を重視したプログラムを展開した。カリキュラム委員が、次期教育課程の編成に向けて検討を行っている。次年度は本校の次期教育課程を決定する。

② 「いのちの大切さ」を実感させる教育

自殺予防、障害のある生徒への対応、いじめ防止、人権教育の充実

相談係2名を配置し、管理職、SC、サポート委員会等との連携により、生徒の困難な問題にも対応できた。今後、サポート委員会を中心として、更なる強固な生徒の支援体制を構築する。

③ 「確かな学力」の定着向上を図り、高い進路目標を達成

「高校生のための学びの基礎診断」等の実施

今年度より「高校生のための学びの基礎診断」の導入を実施。振り返りのプログラムを設定し、「確かな学力」向上に努めた。

今後、授業改善等に向けた取組を推進し、着実な学力定着を図る。また、安易な進路選択をさせないように、確実なキャリア教育を実践していく。

④ 産学官・地域連携事業を強化し、

市民への情報発信を推進

工芸版デュアルシステム、KDO、企業連携等、幅広く生徒達が活躍できた年度となった。市民からも高い評価を得、生徒達の大きな自信となった。また、防災教育においては、内閣府防災チャレンジプランにも取り組み、実績を全国で発表するなど、全国的に高い評価を受けた。次年度も、産学官・地域連携を充実させて、成果を発信していく。

次代に向けて、特色ある教育課程を構築

新学習指導要領の最新情報に基づき、カリキュラム委員会で次期教育課程を検討している。次年度で、本校の魅力と特色ある教育課程を完成する。

今年度より、新学習指導要領を見通して、「総合的な探求の時間」や「高校生のための学びの基礎診断」を実施した。「総合的な探求の時間」は、本校のスクールアイデンティティである「one by design」を科目名とし、より探究活動を重視した。また、「高校生のための学びの基礎診断」を導入し、「多面的な評価」や「学力向上」について検討した。

昨年度から配置された、キャリアナビゲーター(常駐)と連携し、魅力ある本校のキャリア教育が推進できた。特に、3学期に実施した「キャリア講座～これが私の生きる道～」は、マスコミにも取り上げられるなど、地域から高い評価を受けた。次年度は、新しい教育課程を構築するにあたり、3年間の系統立てたキャリア教育をコアプランとして検討していく。

令和元年度 各校務分掌重点目標総括

【総務部】

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
委員会・各種教育の充実	専門委員会の連携・強化を図りつつ、各委員会の統合整理を行う。	A	修学旅行をチーフ主導から学年会主導へ変更をしたことで、充実した行程となった。 PTA活動の活性化ができた。 防災教育の強化・充実ができた。	専門委員会の活性化にむけて連携強化を図る。また、各委員会の統合整理をめざす。
学校全体の環境整備および情報管理の充実	設備の新規導入や更新を推進するとともに、パソコンのリース化に対応する。 WEBサイトの充実による情報発信を推進する。	A	校内の放送機器や普通教室の黒板の整備を行い、教育環境を充実させた。 パソコンリース化に伴い、機微情報に対して適切な対応ができた。 各行事等の情報発信を行い、WEBサイトを充実させた。	設備の新規導入や更新の推進を図る。 情報管理の徹底を図る。

【教務部】

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
「確かな学力」を定着するための学習環境を整備する。	今まで工芸高校で行われてきた、よき習慣を維持する。 学びの基礎診断の活用方法について検討する。	A	学習支援が必要な生徒を把握し、サポート委員会などと連携し、必要な支援を行った。 学びの基礎診断においては、チーム学び委員会を立ち上げ、今後の活用について検討している。	引き続き学習環境の整備に努める。 本校において、学びの基礎診断をどのように運営していくのが相応しいか検討する。
カリキュラム委員会と連携し、新教育課程へ向けて準備検討	新教育課程へ向けて、現教育課程の整理を行う。各教科学科の連携を図るようコミュニケーションをとる。	A	カリキュラム委員と連携し、新教育課程へ向けて引き続き議論を進めている。 単位認定員会等を通して、多くの先生の意見を取り入れるよう、アンケートなどを行い、より良い改善策を検討した。	新教育課程へ向けての準備検討を引き続き行い、カリキュラム委員会を中心に具体的な議論を各教科学科と行っていく。

【生徒会部】

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
生徒会執行部と各委員会がより連携して委員会活動を行い、生徒が主体的に実践する生徒会活動や学校行事を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が中心となり、行事の企画や運営を行う ・執行部が各委員会に参加し連携を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会活動や学校行事において、生徒自身が主体的に企画を検討し、運営することができてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・執行部と各委員会間の連携を確立し、生徒会全体として目標に向かって取り組み、充実した生徒会活動を行っていくよう努める。 ・これまで以上に生徒自身が委員会活動を自主的・自発的に行えるようサポートしていく。
生徒同士が学校生活の課題解決に向けて、計画立案や役割分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むことをサポートする	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒議会などを活用し、生徒が積極的に生徒会活動に参加する ・執行部や各委員会などで生徒同士が課題を見つけ、解決方法を考えていけるような場を設ける 	A	生徒議会において、各クラスからの意見や執行部に寄せられる意見を問題として提起し、それについて討論することで、学校をより良くしていくための活動ができた。	執行部や各委員会、議員などがその枠を超えて話し合い、協力しながら学校生活の課題を解決していけるような機会をつくっていく。
部活動の適正な運用を継続し、学校全体で支援する環境整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・部代表者への意識づけを行い、内部から適正な運用を図る。 ・部活動をサポートするために適切な予算配分を再考する ・より多くの人で部活動を支援する環境整備を継続する 	A	校内の放送機器や普通教室の黒板の整備を行い、教育環境を充実させた。 パソコンリソース化に伴い、機微情報に対して適切な対応ができた。 各行事等の情報発信を行い、WEBサイトを充実させた。	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の実績などを校内外に広報し、学校全体で部活動を応援できるような環境づくりを行っていく。 ・部室の使用や部室周りについて指導を徹底する。

【進路指導部】

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
キャリアマネジメントの見直しと改善を図る	進路行事の内容を見直し、3年間のキャリア教育の流れを把握するために現行の行事等の内容を確認する。	A	進路行事やキャリア教育に関わる授業について内容を整理し、3年間の行事の流れを見直していく必要があると確認した。様々な業界から社会人講師を招き、職業や社会について考えさせる機会を増やすことができた。	社会の変化に対して必要なキャリア教育のために行事の見直し・改善を図る
学校と企業等の情報交換を可能にするネットワークづくりの検討と学習	学校と企業などの情報交換を可能にするネットワークづくりの検討として、企業アンケートを実施しデータを収集し学習する。	A	企業との情報交換は就業体験受け入れ企業、求人企業などに行った。さらに、求人企業に対しては職場定着に向けた簡単な意識調査アンケートを実施した。	社会や企業が求める人材についての情報収集を引き続き行い、生徒とのマッチング向上につなげたい。

【図書部】

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
生徒の図書館の利用促進	広報活動を積極的に行い、図書の選定を工夫し、生徒の図書館利用の促進に努める	A	教員から本のリクエストが多数あるが、生徒からの要望はあまりない。図書委員による通信の作成は昨年度より多くでき広報活動は充実していた。	本の貸出し冊数が昨年度より半減している。生徒が興味を持てるような図書の充実と少しでも読書をする習慣がつくような働きかけをしたい。
図書館の設備充実	授業、課外活動で利用しやすいように、学習を支える環境、資料、情報を提供できるよう図書館の設備、図書を充実させる	A	グループワークがしやすい環境が整ったため授業で利用することが年々増加している。	生徒閲覧用のパソコンなども古くなってきているので検討しなければならない。

【保健部】

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
自分の健康課題を見つけ、目標を設定し、健やかな学校生活が送れる指導・助言する。	保健委員や美化委員が主体となって、活動方針を決めて健康的な学校生活に向けた取り組みを行う。	A	保健委員は保健だよりを自分たちで定期的に作成し、健康に関する注意喚起を全校生に向けて発信することができた。美化委員は私的なゴミの量を調査し、ゴミの持ち帰りを啓発することができた。	学校周辺の美化活動についても生徒が主体的に行う機会を設ける。体力や運動能力が二極化しているため、その改善に向けた活動を企画し、情報を発信する。
スクールカウンセラーや担任、学科や教科担当者と連携し、合理的な配慮を要する生徒やその可能性のある生徒の情報共有やサポート体制の充実を図る。	定期的にスクールカウンセラー同士で情報共有する機会を設ける。また、教育相談係の情報共有を毎週行い、生徒の様子を共有する。配慮を要する生徒については、担当者で情報共有し、健やかな学校生活が送れるような工夫を検討し、実践する。 「こころのSOS」の定期的な実施と、相談希望者には面談を行う。	A	教職員で、情報を共有し、生徒の特性に応じた接し方や授業中の留意点など、対応の具体的な方法についても情報を共有することができた。また、「こころのSOS」を通じて、生徒が教職員やスクールカウンセラーに相談しやすい機会をつくることができた。	生徒に関わる情報を集約しやすいように情報の流れを整理し、必要な支援を立てやすくする。その情報をもとに、関係する教職員で対応方法を検討し、生徒の健やかな学校生活を支えられるようにする。

【工務部】

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
特色ある工業教育（デザイン・ものづくり）を実現するための施策を検討・実施していく	スクールアイデンティティ「ONE BY DESIGN」に基づいた本校ならではの教育課程を構築できるように準備をしていく。	A	定期的開催されるカリキュラム委員会を通し、次期カリキュラムの構築に努めた	次期カリキュラムの具体化を進めて行く。
産学官連携事業（KOGEI DESIGN OFFICE）のシステム構築を推進し、さらに発展させていく	ロードマップに沿った計画を進めていく。ロードマップに於いて、過去の構築を推進し、さらに不達成の案件への再チャレンジをする。	A	過度に課題に取り組むのではなく、課題を精査し生徒の負担を軽くしながら、成果を出すことができた。	校内外にもっとKDOの活動をPRしていきたい。

【生徒指導部】

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
校門指導や講演会の実施、掲示物による注意喚起、日々の指導で、規範意識とともに人権感覚を高めさせ、いじめや問題行動を予防できるよう努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・校門で声かけ指導を行う。 ・毎学期初めに交通安全指導を行う。 ・時期を見て掲示物を発行し、みだしなみや遅刻に関する注意喚起を行う。 	A	登校時、下校時に校門で声かけ指導を行うことで、みだしなみや自転車の施錠に関して意識をする生徒が増えたことから一定の成果を得られた。	遅刻に対して改善の意思が低い生徒に対応する指導体制の構築。
生徒の実態把握や変化に対して早期発見・早期対応ができるよう、担任・学年会・学科との連携、情報共有を図り、生徒が安心・安全に過ごすことができる環境づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、学年会、学科と連携をとる。 ・いじめアンケートを毎月はじめに行う。 ・遅刻者面談を行う。 	B	いじめアンケートや遅刻者面談から、生徒の状況を把握するとともに、必要な場合にはスクールカウンセラーへ繋げるなど、生徒が安心して過ごすことができるよう努めることができた。しかし、担任・学年会・学科との情報共有において、徹底できなかった面がある。	担任、学年会、学科との協力をより一層強め、得られた情報の共有を細やかに行うことで学校全体での生徒指導に繋げる。

【広報企画部】

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
安定した受検者の確保のための情報を収集・分析して、校外広報活動に生かす。	情報の収集と分析 <ul style="list-style-type: none"> ・入試状況の分析 ・希望調査等の分析 ・学校広報活動（チャレンジ教室・見学会・文化祭等）の分析 	A	限られた情報でおこなうため、正確な分析は難しいが、大まかな動向はつかめている。	令和2年度入学生の入試の結果を分析し、次年度の広報活動に反映するように計画をする。
関係部署との連携を図り、より効果的な校外広報活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問の企画・立案 ・進路説明会、上級学校説明会の対応 ・入学案内、学校パンフレットなどの製作 	A	現時点での広報活動は、人員や予算を考えると達成されている。	県立工業高校の再編を視野に、中学校への広報活動（中学校訪問等）の効果的な方法を探る。

